

ギザ台地の墓地形成史を探る

—エジプト・ギザ西部墓地発掘調査(2025年度)—

馬場 匡浩	早稲田大学考古資料館学芸員
吉村 作治	東日本国際大学総長・教授
黒河内宏昌	東日本国際大学教授
西坂 朗子	東日本国際大学客員教授
淡田 陽子	早稲田大学大学院文学研究科修士課程考古学コース
福田 啓太	早稲田大学大学院文学研究科修士課程考古学コース
西端 泉美	早稲田大学文学部考古学コース
アシュラフ・モヒ	エジプト考古省ギザピラミッドエリア査察局長

Exploring the Development of the Cemeteries at the Giza Plateau: Excavation Report of the Western Cemetery Project (2025)

BABA, Masahiro	Curator, Waseda University Archaeological Museum
YOSHIMURA, Sakuji	President and Professor, Higashi Nippon International University
KUROKOCHI, Hiromasa	Professor, Higashi Nippon International University
NISHISAKA, Akiko	Visiting Professor, Higashi Nippon International University
AWATA, Yoko	Graduate Student, Department of Archaeology, Waseda University
FUKUDA, Keita	Graduate Student, Department of Archaeology, Waseda University
NISHIBATA, Izumi	Undergraduate Student, Department of Archaeology, Waseda University
MOHIE, Ashraf	General Director, Giza Pyramid Area, Supreme Council of Antiquities, Egypt

1. はじめに

カイロ近郊のギザ台地には、クフ王の大ピラミッドを取り囲むように墓域が形成されている。棲み分けがされており、クフ王の親族は東部墓地に、官僚たちは西部墓地にマスタバ墓を築いた。そのうち、私たちが注目したのは西部墓地である(図1)。なぜなら、発掘の空白地帯があるからである。この墓地に近代的な発掘の手が入ったのは20世紀初頭であり、G. ライズナーやG. シュタインドルフ、H. ユンカーなどの著名な考古学者たちが調査を続けてきた。しかし、地表面に構造物が確認できないためか、この空白地帯ではこれまで本格的な発掘調査は行われてこなかった。

2023年12月、日本とエジプトの合同調査隊によるギザ西部墓地の発掘が開始された。空白地帯はおおよそ100×75mであり、クフ王の宰相で大ピラミッド建設の責任者とされるヘムイウヌウのマスタバ墓の南側に最初の発掘区(60×40m)を設けた。本発表では、2025年度の調査で新たに検出された遺構について述べたい。

2. これまでの経緯

2024年までの発掘調査により、ヘムイウヌウ墓(G4000)のすぐ南側で2つのマスタバ墓(GW1、GW2)が横並びで発見された(図2)。GW1は東壁の南側にL字形の礼拝室を備え、そこに残る偽扉の碑文から、墓主が「ラーウェル」、息子が「ケヌウ」であることが判明した。GW2にもL字形の礼拝室が東壁に設けられているが、偽扉が抜きとられ、墓主を知る手がかりはない。しかし、年代は確定することができた。未盗掘の地下埋葬室から発見された封泥には、第5王朝最初の王であるウセルカフのホルス名「イリマアト」が押印されていた。この年代は副葬された土器からも支持される。メイドゥームボールと呼ばれる器種であり、その器形は第4王朝中期から第5王朝初期のものである。これにより、GW1の年代も考証できる。両者は同じ構造を有し、ライズナーの分類では、マスタバ上部はtype VIIIc、礼拝室はtype 4b(one-niched)、シャフトはtype 6a、cである(Reisner 1942)。西部墓地での類例(G4712、G4714など)はどれも第5王朝前半とされるマスタバであり、GW1もこの時代のものと考えてよいであろう。

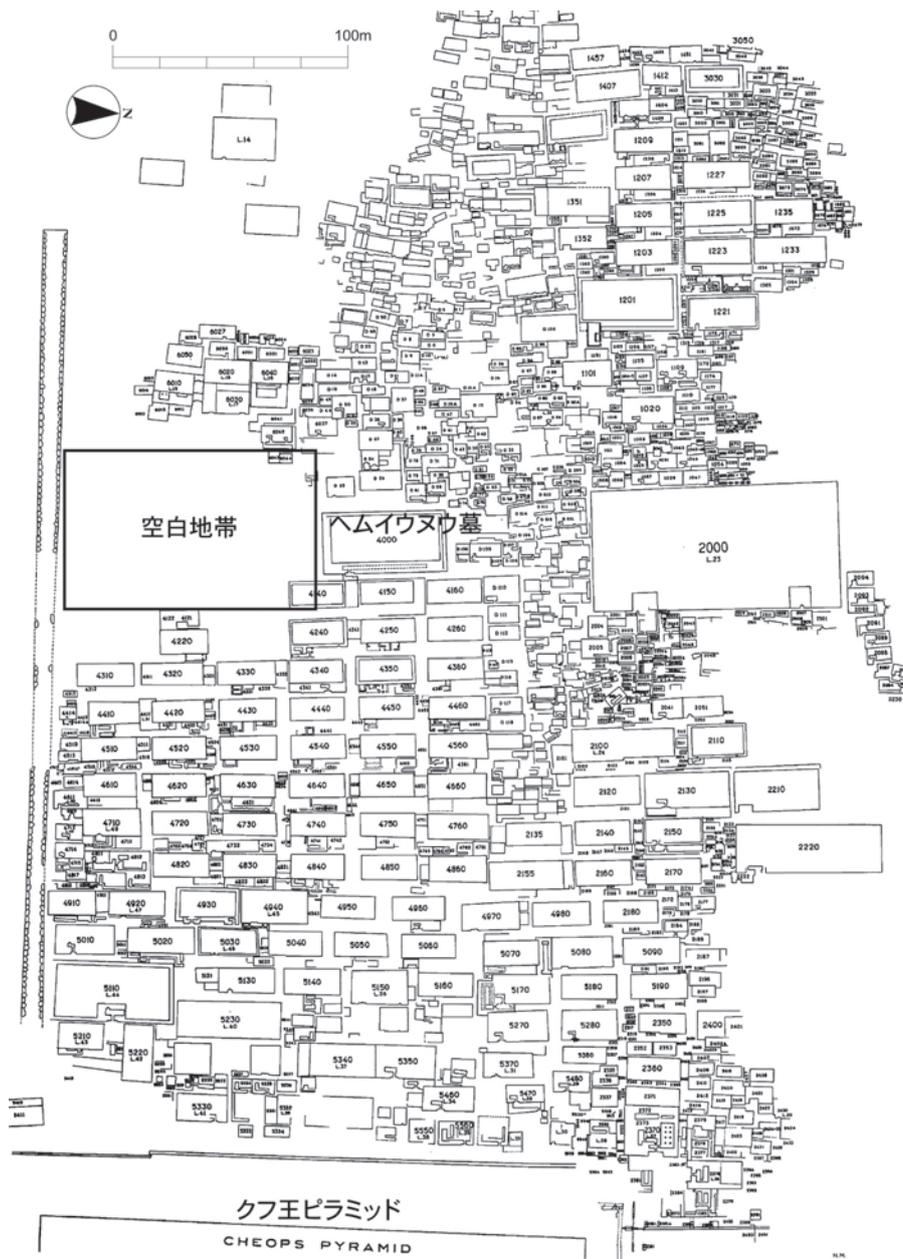


図1 西部墓地遺跡地図

3. 2025年の調査成果

2025年の発掘では、ラーウェル墓(GW1)の西側一帯を対象とした。この地区には、20世紀前半にG. ライズナーによって調査されたG6000墓域(Weeks 1994)と、G. シュタインドルフによるD番号墓群が存在する(Junker 1950; Steindorff 1991)。G6000墓域は、第5王朝のシェプセスカフアंक墓(G6040)などの大型石造マスタバと小型のいわゆる「家族墓」が密集している。D番号墓群は小型の石造マスタバと「家族墓」で構成されるが、その南側に未発掘区があり、今回はこの区域を調査の対象とした(図3)。

まず注目される発見は、参道である(図4)。参道の幅は2.1m、東西におよそ20mのびる。ライズナーの調査ですでにその一部は確認されていたが、今回の発掘により、参道はヘムイヌウ墓(G4000)の西側から始まり、90度西にまがってG6000墓域に至ることが判明した。

この参道の北と南で新たに5基の小型石造マスタバが見つかった(GW3~7)。墓はそれぞれ複数のシャフトを有するが、GW3ではシャフトA・B・E、GW4ではシャフトA・B・C、GW6ではシャフトA・Bが未盗掘の状態であった。どれも遺体付近に副葬品はなく、きわめて簡素な埋葬である。全てが屈葬で左下側



図2 2024年に発見されたマスタバ墓(GW1、GW2)(SfM)

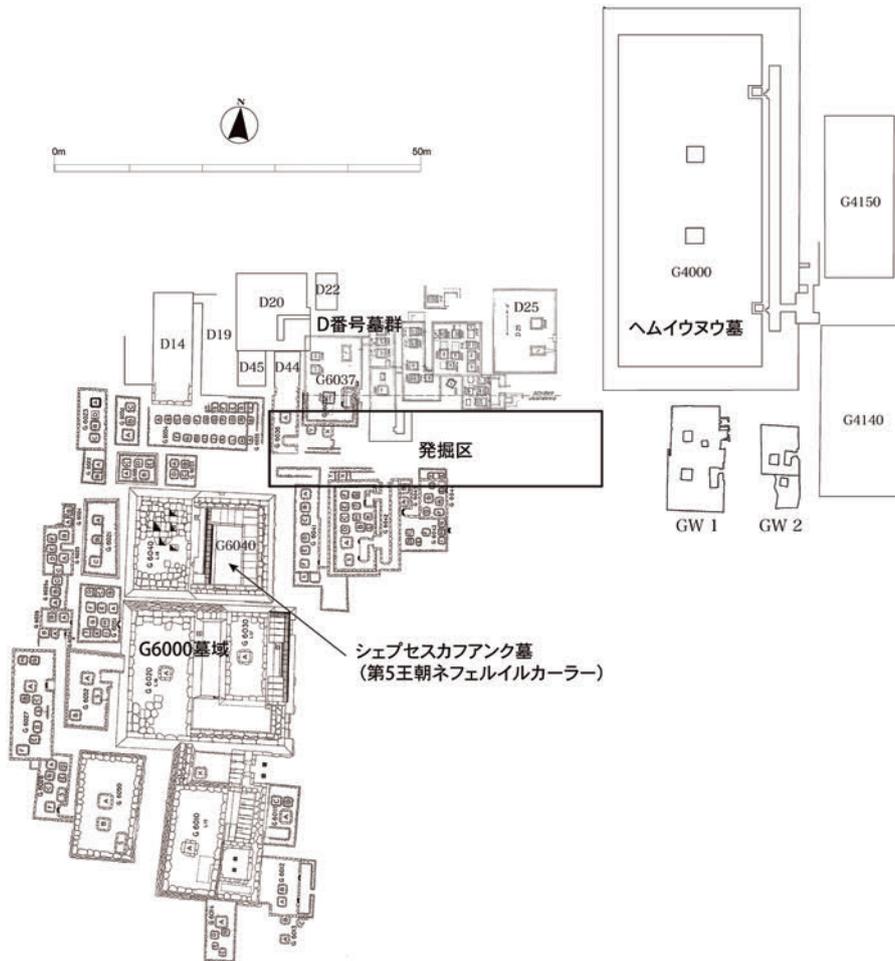


図3 2025年の発掘区



図4 検出された遺構(SfM)

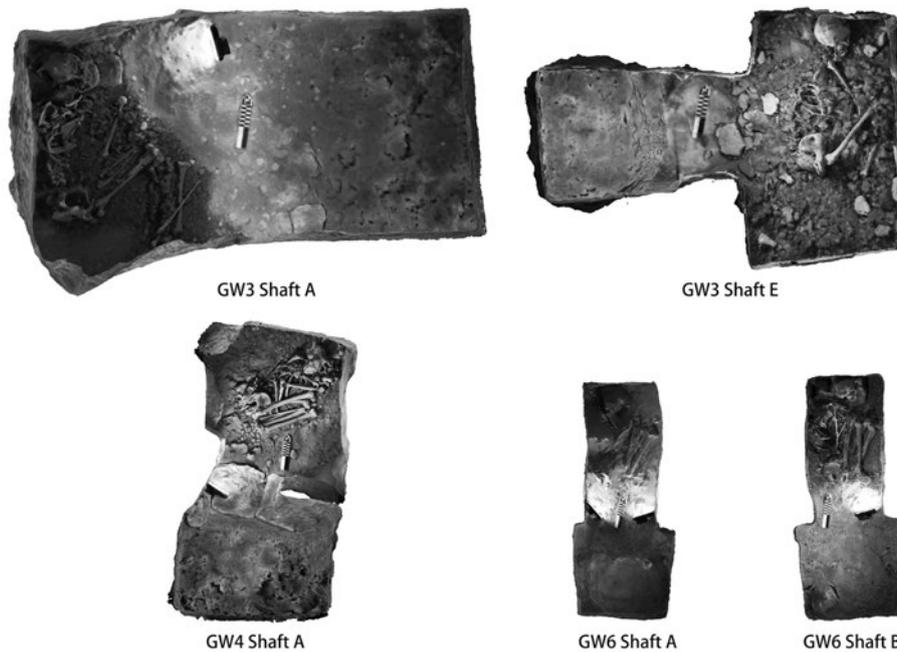


図5 未盗掘墓の埋葬(SfM)

臥、胸の前で両肘を曲げた姿勢である(図5)。頭位は北で顔を東に向けている。一例(GW4シャフトB)のみ頭位が東であったが、これは後述するように、増改築によって埋葬室を東西軸に設けざるをえなかったためである。こうした埋葬様式は、ギザ西部墓地の小型墓において一般的なものである(Fisher 1924)。

これらの墓にみられる特徴は、増改築されている点である(図6)。例えばGW4では、当初はシャフトを1つ有する長方形のマスタバであったが、東壁の石材を一度取り除いて北側にシャフトを新たに構築している。地下でぶつかるのを避けるため、西側に向けて浅いレベルで埋葬室を設けている。そしてさらに、マス

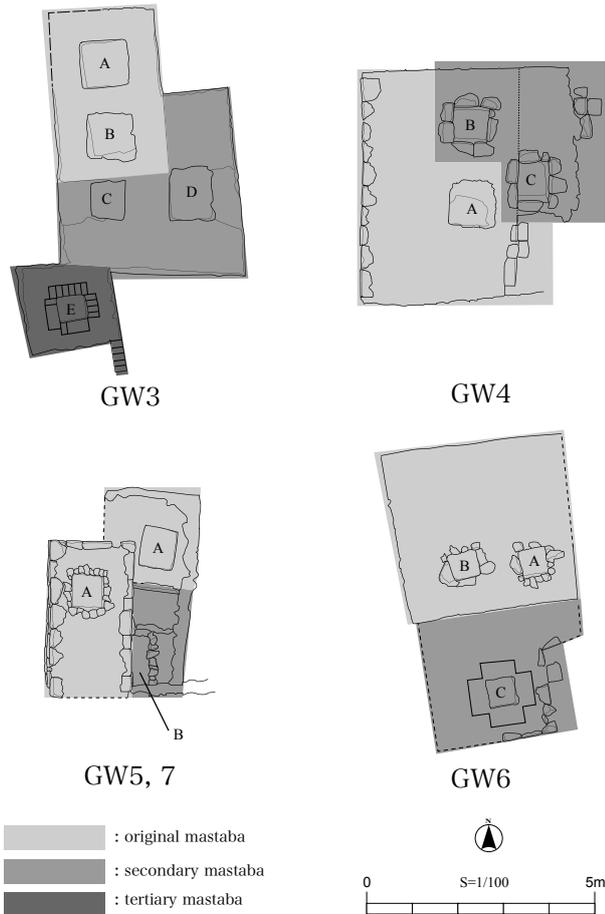


図6 マスタバの増改築

タバ上面から構築するにはスペースがないことから、東壁を利用しながらもう一つシャフトが設けられている。また、GW5では、ほかのマスタバ(GW7)の上部構造を壊して(または壊されていたところに)、東側半分を乗せるように構築されている。そのGW7も南側にシャフトを1つ持つマスタバが増築されている。興味深いことに、このシャフトを取り囲む中込充填材に大量のビール壺が利用されていた(図7)。30個以上の壺が50cmほどの高さに積まれており、特異な例といえる。

今回新たに発見された墓の年代についてであるが、まず基準となるのが参道の存在である。その終点である G6000 墓域は、第5王朝ネフェルイルカーラー王治世のシェプセスカフアंक墓にはじまり、その親族たちが築いたマスタバで構成されている。よって、参道の敷設はネフェルイルカーラーの時代と考えられ、それに接している小型マスタバは第5王朝中期以降と思われる。ただし、GW3とGW7の改築を受ける前のオリジナルのマスタバはそれ以前の可能性もあるが、周囲の墓の年代を考えても第5王朝に比定されること



図7 GW7の中込充填材に利用されたビール壺

は間違いのないであろう。

4. おわりに

今回の発掘により、ラーウエル墓(GW1)の西側で参道と5基のマスタバが新たに発見された。参道が北から延びていたことは注目に値する。シェプセスカフアंक墓の発掘時、棺を搬入する葬送用のランプが残っていた。それは、マスタバの北西隅からはじまり、西壁脇をつたって登り上部のシャフトに至る。つまり、参道のルートが示すように、少なくとも第5王朝における西部墓地へのアクセスは北から南であったと考えられる(Roth 2001)。恐らく当時の集落は、ギザ台地北崖下のクフ河岸神殿・王宮の北側にあり、ピラミッド参道を迂回するように西部墓地へアプローチしていたのであろう。崖下の潤れ谷墓域(Manuelian 2017)はその証左と思われる。また、新たなマスタバの発見により、小型ながらも増改築の詳細な情報が得られた。墓の共有はどのような原理に基づくのか。今後、人骨の形質人類学的分析を行う予定であり、「家族墓」といわれる墓の性格を検討したい。西部墓地は、第4王朝に巨大マスタバで構成される4つの核墓域が形成され、第5王朝以降、大小様々な墓がその合間を埋めるようにして造られるが、一見するとランダムに見える墓地の形成過程の一端をさらなる発掘・研究から明らかにしたい。

■参考文献

- ・ Fisher, C.S. 1924 *The Minor Cemetery at Giza*. Philadelphia, University of Pennsylvania Museum.
- ・ Junker, H. 1950 *Giza 9: Das Mittelfeld des Westfriedhofs*. Vienna, Adolf Holzhausens.
- ・ Manuelian, P.D. 2017 *On the Early History of Giza: The 'Lost'*

Wadi Cemetery (Giza Archives Gleanings, III). *The Journal of Egyptian Archaeology* 95(1): 105-140.

- ・ Reisner, G.A. 1942 *A History of the Giza Necropolis I*. Cambridge, Harvard University Press.
- ・ Steindorff, G. 1991 *Die Mastabas westlich der Cheopspyramide: nach den Ergebnissen der in den Jahren 1903-1907 im Auftrag der Universität Leipzig und des Hildesheimer Pelizaeus-Muse-*

ums unternommenen Grabungen in Giza. Frankfurt am Main, Peter Lang.

- ・ Roth, A.M. 2001 *Giza Mastabas Vol. 6: A Cemetery of Palace Attendants*. Boston, Museum of Fine Arts, Boston.
- ・ Weeks, K.R. 1994 *Giza Mastabas Vol. 5: Mastabas of Cemetery G 6000*. Boston, Museum of Fine Arts, Boston.